



Q & A

Q：留学したいのですが、どこか良いところを紹介してください。

A：人によってお勧めする留学先が変わります。

実は「留学するならここ！」というところはありません。留学に何を求めるかによって、その人にとっての「良い留学先」が変わってくるからです。

留学の目的、時期と期間、留学にかけられる費用、留学したい国・教育機関はどこですか？まず、無数の選択肢の中から、自分の留学の目的は何か、そのためにはどんな形の留学が一番目的を達成できるのか、自分にとっては欠かせない条件は何か、自分自身で考えてみましょう。

Q：留学するためには、どのくらいお金が必要でしょうか？

A：留学先によって様々です。

まずは、留学先を決めてから「留学相談室」（詳細は最終頁にあります）などで相談してみましょう。また、どんな形の留学でも必要なのは、渡航・帰国のための交通費と滞在先での住居費を含む生活費と授業料です。交換留学の場合のみ、愛媛大学に授業料を支払いますが、それ以外は、留学先の教育機関に授業料を支払う必要があります。また、パスポートやビザ取得のための費用、語学力証明のための語学テスト費用（試験会場への移動・宿泊費含）、海外旅行保険の費用など、出発前にも諸手続にお金がかかります。

Q：留学したいのですが、お金がありません。何かいい奨学金はありませんか？

A：狭き門ですが、一部あります。

大学内の海外研修プログラムには、JASSO（日本学生支援機構）や愛媛大学独自の奨学金がつくものもあります。しかし、どのプログラムにどのくらいの奨学金がつくかは年度によって違いますし、基本選考があります。また、学外の奨学金（「トビタテ！留学JAPAN」）などもありますが、申請書記入をはじめ手続きはすべて自分でしなければなりません。本学独自の奨学金の一つとして、一般の方や、民間企業のほか、愛媛大学校友会や各学部の同窓会、後援会からいただく寄付を元にした、えみか夢基金があります。短期留学プログラムの参加学生には、渡航先により異なりますが、2～5万円程度の奨学金が支給されることもあります。また、長期交換留学する学生に対しては、月額2～5万円程度（上限30万円）が支給されることもあります。

上記以外にも、公益財団法人や民間企業からの奨学金もあり、多方面からみなさんの留学をバックアップしています。

留学に興味のある方は…

語学能力試験

交換留学やダブル・ディグリーの取得、大学院への進学などになると、多くの派遣先大学ではIELTSやTOEFL等の英語や現地の言語能力試験のスコア提出が求められます。留学希望先によって、求められる試験の種類やスコアは異なりますが、申請時には提出が必要となるため、自分の英語力を知るためにも早い段階から受験準備をしておくといでしょう。中には愛媛で実施されない試験もありますので、注意してください。

GPA（Grade Point Average）

交換留学等の派遣学生の選考にあたっては、近年GPA／学業成績が非常に重要になってきています。GPAは留学だけでなく、奨学金の選考や就職活動においても重視されています。普段からの積み重ねが大切ですので、日々の学習に真剣に取り組みましょう。

貯金

留学期間や留学先は、用意できる費用に大きく左右されます。いざという時のために、留学費用を準備して自分のできる限り貯金しておきましょう。

どんなプログラムがあるの？

短期留学プログラム

短期留学を希望している方は、教員が企画した短期留学プログラムに参加することができます。基本的に1か月以内の短期プログラムがほとんどで、現地の学生との交流や文化体験に主眼を置く文化研修やフィールドワーク系のプログラム、語学研修があります。留学先は主に海外の協定校や愛媛大学の関係機関となります。教員が引率するものが多く、初めて海外へ行く、初めて留学を体験するみなさんにとっては、参加しやすいプログラムです。中には科目登録されているものもあり、単位取得できるものも一部あります。

語学留学

個人で渡航するタイプの留学のなかで、ホームステイ先（もしくは寮）から各種語学学校（大学附属のものと私立のものがあります）に通うタイプの留学です。期間は最短で2週間くらいから長期（6ヶ月～1年）にわたって滞在する人もいます。協定校に附属する語学学校に留学する場合でも、語学学校は大学そのものと経営母体が異なりますので、授業料等はすべて私費で支払う必要があります。私費による語学留学であっても、また、協定校ではない私立の語学学校で学ぶ場合でも、所定の授業日数を満たし、きちんとした成績証明書が発行される場合は、愛媛大学の単位が認定される場合もあります。



単位認定についての注意

語学留学の単位認定については、学部によって扱いが異なりますので、みなさんが所属する学部に登録可能な科目があるかどうかをまず確認してください。自分が所属している学部とは異なる学部で語学留学の単位が認められる科目がある場合、それらの科目に登録した場合に、自分の学部において卒業要件を満たす単位として認定されるのかどうかなど、詳細について、事前に充分に確認しておく必要があります。

長期留学（交換留学プログラム）

個人で渡航するタイプの留学プログラムです。これは、愛媛大学に授業料を支払い、ある一定の期間（半年～1年間）、愛媛大学の海外の協定校で学ぶことをいいます。この場合、愛媛大学に学費を支払っていますので、留学先へ学費を納入する必要はありません。また、交換留学中は、愛媛大学に在籍しているものとみなされますので、1年間留学していても、学年進行に影響しないというメリットもあります。ただし、交換留学プログラムのなかには、プログラムに参加するために求められる語学能力のレベルが高いものがあり、語学能力証明(TOEFL/IELTSなど)が必要となりますので、早くから計画して、準備をしておくことが大切です。交換留学プログラムにおいて現地で取得した単位は、学部の規則に沿って審議のうえ、愛媛大学における単位として読み替えられることがあります。

留学を考えた時

1

情報収集 → 留学先や留学の種類、費用は様々です。まずは情報収集から始めましょう！

自分で本やインターネットを利用して情報収集してもいいですし、留学相談室（最終頁）を利用してもいいでしょう。また、毎年春に実施している「Study International Fair」に参加して留学体験者の話を聞いてみるのもいいかもしれません。

2

プランニング → 集めた情報の中から、必要な予算や留学の時期について検討しましょう！

- ・なぜ留学したいのか？（語学力？専門知識？異文化体験？）
- ・留学先で何を学びたいのか？（英語？中国語？法律？異文化体験？）
- ・どの国に行きたいのか？（アメリカ？ドイツ？インドネシア？）
- ・いつ留学するのか？（夏休み？○年生？就職先決定後？）
- ・どのくらい留学したいのか？（数週間？数ヶ月？1年間？）
- ・帰国後留学をどう活かしたいのか？（就職に？人生経験として？卒業後大学院進学のため？）

3

留学の具体化 → 自分がイメージする留学を明確にしましょう！

有意義な留学生活を送るために、目的、自分の語学力、予算、時期などの条件に見合った計画を立て、余裕をもったプランとなるよう心がけましょう。

専門知識の追求

交換留学
インターンシップ
フィールドワーク
ダブル・ディグリー など

語学留学

大学主催の短期プログラム
大学等の附属語学学校
一般の語学学校 など

異文化・海外体験

大学主催の短期プログラム
ワーキングホリデー
海外ボランティア
ワークキャンプ など

4

入学許可・留学手続き

申請書など、提出期限に気を付けましょう。入学許可証等は内容に間違いがないかチェックします。授業料などを振り込む場合は、必ず期日までに支払いをすませましょう。

5

渡航手続き

パスポートやビザの申請など、入国に必要な準備をします。

6

出発

留学と休学について

知っておきたい

交換留学プログラムのように、愛媛大学に在籍しながら海外の協定校等に留学することができるものもありますが、長期間の語学留学の場合は、愛媛大学を休学して留学する人もいます。休学期間中は愛媛大学に学費を支払う必要はありませんが、在籍日数には数えられないため、卒業を延期することになります。休学期間中に留学しても、単位が認定されることがありますので、早めに留学相談室や、学部の学務チームにて、具体的な休学手続きの時期にくわえて、留学の計画や単位認定についても相談しておきましょう。



私は大学3年生時に、1年間ルーマニア国立バベシュ・ボヤイ大学に留学した。留学では、欧州研究学部等で国際関係学や安全保障学を英語で学び、文学部でルーマニア語の習得にも励んだ。加えて、同大学に所属する日本文化センターのボランティアスタッフとして、日本文化のプロモーション活動にも取り組み、現地の方々と多くの交流を深めた。留学を通して、私は挑戦し続けることの大切さを学んだ。ただその国に行き、椅子に座って講義を受けるだけでなく、自分の足で色々な場所に行き、様々な人に会って話し、その国の歴史や文化を知ろうとし、その理解を言葉と態度で示すことで、深い人間関係を築くことができた。さらに、異文化の空間で生じる障壁を「面白い」と思いながら乗り越えることで、人間力を大いに成長させることができた。これらは学座で得た知識よりも貴重な経験になった。そしてこの経験こそが留学の醍醐味であると、帰国した今でも実感している。

(2024年2月～2025年3月 国際交流協定校交換留学 法文学部 梅田小桃未)



私は2024年9月1日～2025年6月22日まで約1年間台湾の国立政治大学に交換留学に行った。国立政治大学は国際交流や言語教育に力を入れており、留学中は中国語を学んだり東南アジアやアメリカの歴史文化を幅広く学ぶことができた。留学当初は先生やクラスメートの言語のペースについていけずコミュニケーションに対し苦手意識があったが、現地の学生が参考書を使って丁寧に教えてくれたこともあり前向きに学習に励むことができた。また日本人と台湾人の交流会ではゲームや旅行を通じて他者と意思疎通できる喜びを実感することができた。最終的には自ら挨拶をして相手との会話を試みるなど外向的な自分に成長することができた。

今後は留学中に学んだ中国語を向上させられるよう授業外でも言語学習に努めていきたいと思う。またこれから関わっていく日本人・在留外国人どちらも会話が弾むよう、そして多様性社会を支え発展させていける市民の一人となれるよう、言語を話す力・聞く力に加え世界の国々に関する知識・教養をもっと身に付けていきたい。

(2024年9月～2025年6月 国際交流協定校交換留学 法文学部 森山煌大)



8月から12月にかけて、インドネシアのバンドン工科大学に留学しました。主に海洋工学を学び、現地の学生と一緒に講義を受けたり、フィールドワークに参加したりしました。これらの活動を通して、少しずつ英語を話すことへの不安がなくなってきました。インドネシアでは、公用語のインドネシア語のほか、ジャワ語やスダ語など多くの言語が使われています。そのため、人々はそれぞれ訛りのある英語を話しており、私が日本語訛りの英語を話しても、一つの個性として自然に受け入れてくれました。そのおかげで、良い意味で肩の力が抜け、気軽に英語を話せるようになりました。一方で、英語が万能ではないことにも気づかされました。英語が通じない場面も多くありましたが、単なる意思疎通にとどまらず、相手の心を開くためには現地の言葉を使うことが大切だということも実感しました。こうした経験から、今後は英語だけでなく、インドネシア語をはじめとする多様な言語の習得にも力を入れていきたいと考えています。

(2023年8月～2023年12月 国際交流協定校交換留学 工学部 宗野和馬)



私は将来海外で仕事をしたいという思いがあり、特に教育に関する仕事に就きたいと考えています。そのため海外で英語を用いて授業実践を行うことが出来るというこの研修に興味を持ち、参加することを決めました。この研修では、フィリピンの学生を対象とした授業を授業準備から実践まで他学部他学年の人達との協力で行いました。準備をする中でフィリピンや大学の先生方にご指導いただいたり、実践を重ねてフィードバックを頂いたりすることが出来、授業づくりへの向き合い方が大きく変化しました。英語で授業を行うことは簡単なことではありませんでしたが、分かりやすく伝えるためにイラストやデモンストレーションを用いたり、進度の確認のために生徒一人一人に声を掛けたりしました。授業後には、生徒から楽しかったと言う言葉を聞くことができ、達成感を感じ、教職への意欲が高まりました。この経験を活かしてこれから教育実習や授業作りへと活かしていきたいです。海外での生活はたった1週間でしたが刺激的な毎日とても貴重な経験が出来ました。

(2025年3月 短期留学プログラム 教育学部 名谷真梨)



私は、2025年の8月に蔚山大学で行われた約3週間の韓国語・韓国文化研修に参加をした。初日にレベル分けのテストが行われ、次の日から午前中はレベルごとに分けられたクラスでの授業、午後は蔚山大学の韓国学生パートナーとの文化研修が行われた。授業は、文法や単語を学ぶことはもちろんだが、実際に韓国語を使ってコミュニケーションを取る時間も多く、より実践的な学習ができたと感じた。また、午前中に習った新しい会話表現を午後の文化研修で韓国学生パートナーと話す時に使ってみることを意識することで、自然と自分の語彙力や発音が良くなったと感じた。今回の研修を通して良かったと思うことは、いろいろな人に出会えたことだ。韓国語という1つの言語を通して、蔚山大学の先生方や学生、留学生、他県から来た他大学の学生、今まで出会うことの無かった人と出会い、言語を通してつながったことで、自分自身の考え方や視野も広がったと思う。機会があれば、また留学に挑戦したい。

(2025年8月 短期留学プログラム 法文学部 本田茉奈美)

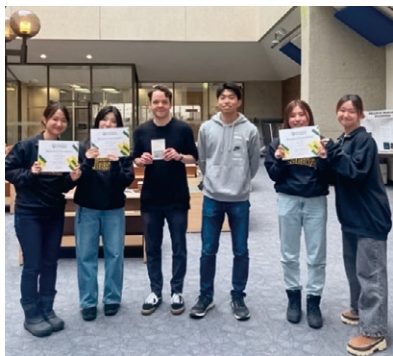


2025年の3月にフランスのブザンソンで3週間の語学研修に参加した。研修の目的は語学力向上のためであり、現地の語学学校に通いながらホームステイをするという内容だった。語学学校ではレベルごとにクラスが分けられ、熱意のある国際色豊かなクラスメートたちと一緒に学べたことは、語学以上の学びにつながった。皆が積極的に発言し、間違えることも勉強になる環境はとても貴重だったと思う。

ホームステイ先では、ホストマザーがマレーシア出身でフランス語を学んだ経験があったため、発音や言葉の使い方をネイティブとは違う視点から教えてくれた。特にフランス語特有の喉や舌の使い方など、ネイティブのホストファミリーにも説明できないコツを教えてくれたのが強く印象に残っている。週末には3人で隣町に出かけ、ピクニックやハイキングをしてフランスの自然を満喫した。

今回の研修では、フランス人と生活し、フランスの文化や価値観に直接触れることができた。この経験は、9月から始まるフランスへの交換留学の良い準備になったと思う。また、人との出会いや交流が語学を学ぶ大きな原動力になり、そこで得られる刺激や充実感が自分の成長につながっていくことを実感した。

(2025年3月 短期留学プログラム 法文学部 長砂菜緒)



私は今年の2月頃にカナダに1ヶ月間、語学留学に行きました。この1か月間は見るものすべてが学びだったと思います。英語を学んだというのはもちろんですが私が個人的に1番得たものは“周りの目を気にしないこと”です。私は留学をする前、人と違うことを恐れ、周りの目を気にしてしまう性格でした。ですがカナダでは違うことが当たり前でした。言語も国籍も宗教も違う多文化社会の中で、自分が思っている以上に人は他人に興味がないと学ぶことができました。普段の生活ではホストファミリーと一緒に過ごす時間が楽しかったです。観光地に行くというよりもドッグパークに行ったり、友人たちと食事を楽しんだり、リアルな日々の暮らしを体験させてもらいました。また、留学を通して職業の選択肢がかなり広がりました。今後は日本でも継続的に英語を学び続けたいと思っています。

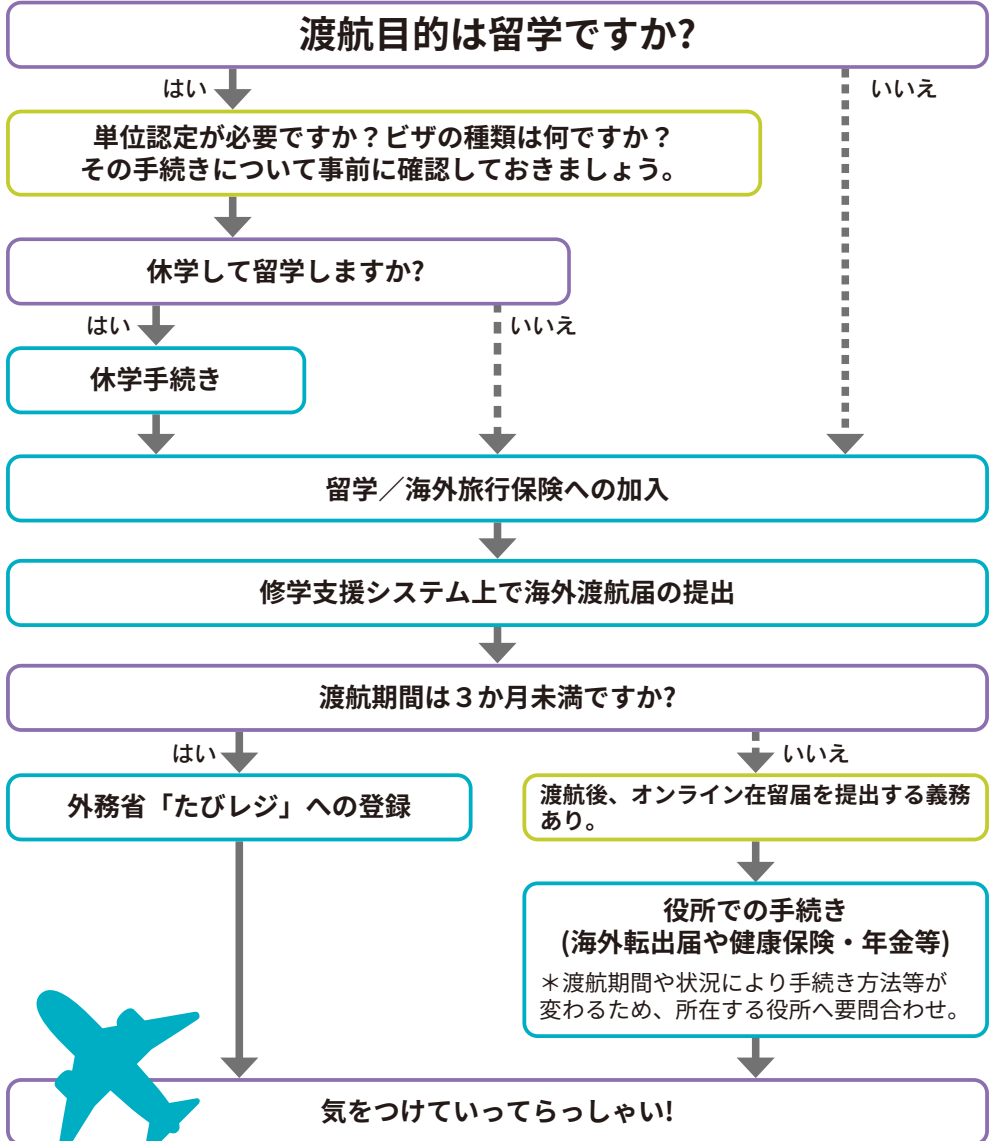
1ヶ月間という短い時間の中で数えきれないほどの経験と学びを与えてくださったホストファミリーやアルバータ大学の方々に心から感謝しています。

(2025年2月～2025年3月 語学留学 農学部 大谷莉子)

渡航前に行う手続き ～書類手続き～



海外に渡航する場合に必要な、基本的な書類手続きは以下のとおりです。



個人的に参加する語学研修プログラムや奨学金関係では、このほかにも書類提出が必要な場合があるため、必ず担当部署等に確認すること。

渡航前に行く手続き ～渡航準備～



留学など、海外渡航が決定したら渡航に向けた準備を早めに始めましょう。

渡航前に行くべき主な準備は以下のとおりです。あくまで基本的なものですので、渡航先に合わせた必要な準備は自分で改めて確認しましょう。また、取組時期については目安として参考にしてください。

準備項目		取組時期	備考
<input type="checkbox"/>	予防接種（厚生労働省の情報等参考に接種）	7～3か月前	必要に合わせ
<input type="checkbox"/>	健康診断	6週間前まで	必要に合わせ
<input type="checkbox"/>	歯科検診・治療		
<input type="checkbox"/>	いつも服用している薬があれば滞在中の分を処方してもらうか処方箋（英文）を出してもらう	早めに	ビザ及びパスポートの発給は時間がかかりますので、余裕を持って申請してください。 ※渡航先によっては航空券の手配にはビザが必要な場合があります。
<input type="checkbox"/>	パスポートの申請・有効期間の確認		
<input type="checkbox"/>	ビザの申請（必要な場合のみ）		
<input type="checkbox"/>	渡航先の情報収集（文化・習慣、気候、法律等）		
<input type="checkbox"/>	渡航先で必要な荷物の用意（常備薬を含む）		
<input type="checkbox"/>	航空券の手配		
<input type="checkbox"/>	海外留学の危機管理について情報収集（海外渡航安全ガイド、JCSOS学生・渡航者向けサイト）		
<input type="checkbox"/>	外務省HP等から現地の治安情報・感染症危険情報等を確認		
<input type="checkbox"/>	海外旅行保険や留学保険に加入		
<input type="checkbox"/>	海外渡航届を修学支援システムで提出		
<input type="checkbox"/>	連絡先リストの作成 （現地大使館・総領事館、現地警察、クレジットカード・航空・保険会社、大学緊急連絡先等）	渡航日程 決定後	
<input type="checkbox"/>	外務省「たびレジ」への登録 ＊3か月未満の短期渡航者（旅行者を含む）が対象。 3ヶ月以上の方は、渡航後、オンライン在留届を提出する義務あり。		
<input type="checkbox"/>	プログラム説明会・事前研修等に参加	適宜	

準備の主なポイント



●一番大事なのはパスポート

入国時に必要な**残存有効期間**が、帰国予定を超えて必要な場合がありますので予め確認しておきましょう。(例) アメリカ90日以上、中国・インドネシア6ヶ月以上、等
※最新の情報を確認してください。

出発前にも、必ず所持していることを確認してください。

盗難にあった際には、現地の警察へ盗難届を出し、現地の日本大使館もしくは領事館に届け出て**再発行**を申請することになります。**帰国のための渡航書**を申請することで発行に必要な日数を短縮することもできます。予め各機関の場所と連絡先を確認しておき、**コピーとパスポート用の写真**も複数枚用意して別の場所に保管しておきましょう。

●連絡手段の確保とお金の管理

前述のようなトラブルがあった時、連絡ができなければ困りますので、**海外で使用可能な携帯電話等連絡手段**と**インターネットへの接続環境**は確保しておき、連絡する可能性のある連絡先は紙のリストにまとめておきましょう。

自分の連絡先は海外渡航届に入力して提出するとともに、家族や担当の先生にも伝えておいてください。現地で重大な事態が発生し情報提供や安否確認が必要となった際、連絡が取れなければ、自分だけでなく周りの人にも大変な心配をかけてしまうことになります。

また、お金についても必ず必要なものですが、細かい支払いのための現金とクレジットカード等、**複数の手段**で持っておくようにしましょう。カードに不安のある方はプリペイド式のものを用意し込んで所持しておけば、トラブルの際被害額を限定できますし、渡航中に残金が不足する場合には日本国内の家族から入金してもらうことも可能です。

●電子渡航認証

海外に渡航する際には、国によって **電子渡航認証システム (ESTA [米国]、E-TAS [オーストラリア]、K-ETA [韓国] など)** への申請が必要となる場合があります。これらは、入国前にオンラインで事前に承認を得る制度です。

渡航前には必ず各国の認証システムに申請する必要がありますので、余裕をもって準備してください。

申請には時間がかかることもあるため、**遅くとも出発の2週間前までに申請を完了するようにしてください。**

●健康面では

感染症等のおそれのある国へ渡航する際は、事前に**予防接種**を受けておくべき場合があります。期間を置いて複数回受診の必要なものもありますので、余裕をもって確認してください。

また、海外旅行保険のうち多くの種類では**歯科疾病**は対象外となっています。現地で処置が必要とならないよう、こちらも前もって国内で受診しておきましょう。

その他、海外へ渡航してからは、**生水や生もの**の飲食は避けた方が無難です(歯磨き、果物を洗う水、飲み物に入っている氷等にも気をつけてください)。また、**普段使用している医薬品は手に入らない**こともありますので、予め準備しておきましょう。



トラブルあれこれ…

〈参考〉

一部、外務省「海外安全虎の巻～海外旅行のトラブル回避マニュアル～」より抜粋

ケース1 乗り物の中で

バスの車内で集団に取り囲まれて、バスが揺れるたびに体に触れたり、乗客が乗り降りするたびに押されたりして、後で気が付いたら財布をすられていた。

ケース2 ホテルの部屋で

スーツケースにパスポート・現金などを入れて鍵をかけ、部屋に置いたまま外出したところ、泥棒に入られ、スーツケースの鍵が壊されて金品が盗まれていた。

ケース3 偽警官

観光していると「チェンジマネー」と言いながら両替を求めて近づいてきた男を、別の男が警察手帳のようなもの（偽手帳）を見せながら追い払った。こちらにも闇両替の疑いがあるとして、パスポートや財布の提示を求めてきたので渡すと、中身を確認し、そのまま返してくれた。ホテルに帰ってから財布を確認すると、高額紙幣が抜き取られていた。

ケース4 睡眠薬強盗

市街地を観光中、自分も旅行者だと名乗る男と親しくなり、市内を一緒に観光した。かなり歩き回ってから、ビールを買って公園で一緒に飲み、すすめられたクッキーを食べたところ、意識を失った。その後、もうろうとした状態で歩いているところを発見され、気がついたら、パスポート、現金、航空券、時計など身の回りの貴重品全てを盗まれていた。

ケース5 車中への荷物の放置

貸切のマイクロバスや乗用車で移動中、休憩や食事で降車した。座席の外から目立つ場所に貴重品を置いたままにしていたため、盗難に遭ってしまった。



より詳しくは、海外渡航安全ガイドブックをご参照ください！





海外に行けなくても…ココで国際交流ができます！

■ J-Support (日本語ボランティア)

留学生の日本語科目の授業への参加やイベント支援等の活動を通じ、留学生の日本語学習支援をしています。メンバーは随時募集（事前説明あり）。毎学期はじめには説明会も実施しています。授業の空き時間などを利用して、まずは留学生と日本語で交流してみませんか。



■ English Hour

無料で留学生と英語で話せる時間です。学生同士、リラックスした雰囲気の中での会話を楽しみ、学内にいながら、英語力を向上させることができます。



■ 国際交流学生サークル「ICO」

愛媛大学には、大学が委嘱するスチューデント・キャンパス・ボランティア (SCV) という学生ボランティア制度があります。国際交流コーディネーター (ICO) もその一つで、学内の国際交流促進のため積極的に活動しており、毎月、留学生との交流企画（チャット）を実施しています。



■ サークル・部活動

あなたの所属するサークルや部に、ぜひ留学生を誘って一緒に活動しましょう。

■ 受入プログラムに参加

キャンパスでは、さまざまな留学生受入プログラムが実施されています。積極的に参加して、国際交流の機会を広げてみましょう。

たとえば、国際連携推進機構ではアメリカのカレッジ・オブ・レイクカウンティ (CLC)、ジョリエット・ジュニア・カレッジ (JJC)、韓国の蔚山大学校からの受入プログラムを行っています。



英語・外国語の勉強は…ココで！

■ ESS

English Speaking Societyに入って活動することで英語の力をつけることができます。

■ 留学生や帰国生と話そう

留学生や、留学から戻ってきたばかりの日本人学生と一緒に、英語やその他の外国語を積極的に使いましょう。詳しい情報は、国際いんふおMLでお届けしますし、国際連携推進機構 (Institute for International Relations: IIR) のウェブサイトもチェック！

■ 仲間をつくろう

英語や外国語の勉強のスタイルは十人十色！自分で、勉強のグループをつくるのもいいですね。国際連携課もできるだけお手伝いします。

留学について詳しく知りたいときは…ココで！

1. 留学相談室

留学相談室は、留学を希望する学生が気軽に相談できる窓口です。毎週、決められた時間に開室しており、事前に予約をしてから訪問することも可能です。留学に関する基本的な情報収集はもちろん、渡航までのスケジュールの立て方など、より実践的なアドバイスを受けられます。また、留学先の国や地域によって担当する教員が異なるため、自分が興味のある地域の担当者に直接相談してみましょう。各学期（クォーター）のはじめには、学内の掲示板や国際いんふおMLで、相談室の詳細を確認できます。まずは気軽に立ち寄ってみましょう。また、学部によっては、毎年留学プログラムごとに説明会を開催します。プログラムの概要や応募条件、費用の目安などが詳しく紹介されるため、留学を考える学生にとって最適な第一歩です。

場 所／愛大ミュージズ2階 M212

相談時間／ 12：00～12：30（開催曜日は毎年年度始めに決定）

2. 国際連携支援部 国際連携課 学生交流チーム

留学に関する窓口として、国際連携課学生交流チームがあります。交換留学、短期プログラム、奨学金など幅広い情報を提供しており、申請手続きや書類作成のサポートも行っています。

場 所／愛大ミュージズ2階

メール／✉ kokuryu@stu.ehime-u.ac.jp

電 話／☎ 089-927-9157

3. 国際いんふおML

「国際いんふおML」は、学生向けに国際交流や留学に関する情報を配信するメールサービスです。最新の募集案内、説明会の告知、奨学金情報などが随時届けられるため、登録しておく大切なチャンスを逃さずに済みます。特に短期間で締め切りが迫る募集もあるため、日常的にメールをチェックしておくことが大切です。登録方法は、国際連携課前の掲示板や国際連携推進機構ウェブサイトにて確認できます。



4. Study International Fair

春（例年5月頃）に開催される「Study International Fair」は、学内で最大規模の国際交流イベントです。交換留学や短期研修の体験記をはじめ、留学生の母国を紹介するブースが設けられ、留学経験者や留学生から直接話を聞くことができます。毎年、多くの学生が訪れるため、興味のあるプログラムの情報を一度に得られる貴重な機会です。



5. 愛媛大学生協旅行カウンター

愛媛大学生協の旅行カウンターでも、様々な留学・海外研修プログラムを取り扱っています。専用のパンフレットがもらえたり、スタッフから具体的な説明を受けることができます。また、生協主催の海外研修説明会も開催されており、留学を身近に感じられる機会が提供されています。

6. 危機管理セミナー

留学や海外研修に出発する前には、安全面を学ぶことが欠かせません。そのため、長期休暇前には「危機管理セミナー」が開催されています。ここでは、海外での生活における注意点や緊急時の対応方法を学ぶことができます。また、このセミナーへの出席が研修参加や奨学金の受給条件になる場合もあるため、渡航予定がある学生は必ず参加しましょう。事前にしっかりとリスクを理解しておくことで、安心して学びに集中することができます。